

東北新幹線なら
東京⇄郡山 80分
仙台⇄郡山 40分

福島県 県中地域

福島県は、東から浜通り、中通り、会津地方と
3つ地域に分け、更に中通りを北から3つの
地域に分けた、真ん中の地域が県中になります。

県中地域定住・二地域居住推進連絡協議会

事務局／福島県県中地方振興局 企画商工部
〒963-8540 福島県郡山市麓山1-1-1
TEL 024-935-1323



ふくしま移住計画 ウェブサイト
<https://fukushima-ijyu.com/>

ほ
ど
よ
い
イ
ナ
カ
が、
住
み
や
す
い。
。

福島と真ん中移住ガイド

ふくしま移住計画

vol.
4

提供：郡山市
photo：郡山駅前周辺

photo：城山公園からの田園風景（浅川町）

移住までのステップ



step1: 移住の目的を考えよう

何を求めて移住するのかによって選ぶ地域は大きく変わります。農業をしたい、環境の良い場所に住みたい、子どもの教育を考えて…など。どんな地域でどんな生活を送りたいのか、よく考えてみるのが大切です。

step2: 家族・パートナーに相談しよう

移住の目的やメリット・デメリットなどを家族やパートナーとよく相談しましょう。また、相談することによって移住後の生活スタイルを具体的にイメージすることができます。



step3: 情報を集めて目的に合う地域を選ぼう

移住の目的が決まったら、交通の便や気候、地域性、仕事や子どもの教育など、様々な条件を考慮して、いくつかの地域を重点的に調べましょう。Webサイトはもちろん、移住セミナーなどに参加してみるのもおすすめです。

step4: 現地まで実際に行的ってみよう

気になる地域は実際に目で見るのが一番。体験ツアーや移住体験住宅を利用できるところもあります。現地の雰囲気や生活環境を体験し、自分の想像とかけ離れていないか、確認しましょう。



step5: 移住先で仕事を探そう

生活していくうえで、まずは仕事が必要です。移住相談窓口やハローワークに問い合わせるのもよいでしょう。また、農業を始めたいなら、各地域の就農相談窓口などに相談しましょう。

step6: 住む場所を探そう

住みたい地域で目的に合った住居を探しましょう。中古住宅は補修が必要な場合もあるので、必ず現地確認を。



step7: さあ、いよいよ移住!

ご近所にあいさつしたり、地域の行事に参加したりして、地域との交流を深めていきましょう。

移住に興味があるけど、どこに相談したらいいかわからない…

ふくしまにおまかせください!

私は、県中地域の小野町の在住で、長年、移住希望者と地域の人々の橋渡し役を担う「福島ふるさと暮らし案内人」として活動してきました。移住には不安がつきもの。そんなときに親身に相談に乗ってくれるところがあると嬉しいし、心強いですよね。移住後の友達づくり・仲間づくりのサポートにも力を入れていますので、ぜひお気軽にご相談ください。

福島県県中地方振興局：TEL 024-935-1323

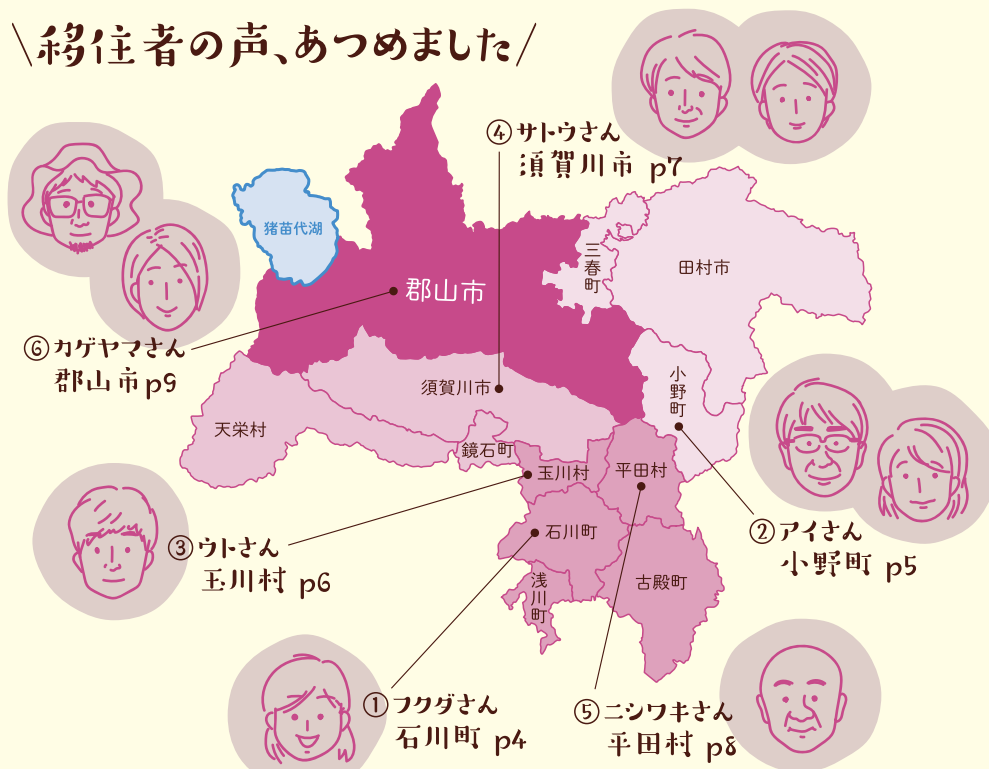


福島県移住
コーディネーター
(県中地域担当)
よもぎた まもる
蓬田 守です。

蓬田さんのFacebook



移住者の声、あつめました



移住者インタビューGO!▶

vol.4

びと

ふくしま人、かく語りき。

移住者インタビュー

お客様のニーズを掴むことや
地域の人とのつながりを作ること
大事にしていきたい

福田 仁美さん(石川町)

福島県須賀川市出身、岩瀬農業高校生物生産科、北海道の専門学校で酪農、畑作、園芸などを学び、北海道の観光果樹園での業務を経験し、2020年の8月にUターンして石川町の仲田種苗園の農場で元気に働いています。



Q.地元に戻ってきたきっかけを教えてください

元々は酪農がやりたいと勉強していたのですが、北海道の専門学校時代にアレルギーがでてしまって、果樹栽培の方に切り替えて北海道で観光果樹園に就職しました。

自然に携わることが好きで働いていましたが、観光部分もあったのでどんどん接客中心のサービス業になってしまって、自分が考えていたような自然に携わる仕事ができなかつたので、段々とホームシックになっていたようなところもあったので、家族のところへ帰ろうと思って実家に戻ってきました。

Q.戻ってきて仕事はどう探しましたか？

誰かの紹介とかではなく、普通にハローワークで探しました。農業系に興味があったので、応募してみたところ仲田種苗園で採用していただきました。

実家に帰ってきたのが8月で、9月から働いています。

Q.Uターンして今の暮らしで良いところは？

やはり家族と一緒に暮らせていること。



第19
ふくしま人

実家暮らしでお金がいりかからないというところも(笑)。

悪い点というほどではないですが、一人の時間が欲しいタイプなんです、それがなかなかとれないということもあります。

Q.仕事はどんなことをされているんですか？

矢吹農場というところで、私含めて4人で作業をしています。少し前までは、出荷作業で忙しかったんですけど、それを終えて今はモミジの苗木を植えかえる作業をしているところです。

仲田社長も先輩たちもいい人ばかりで楽しく働いています。※仲田種苗園の仲田社長はモミジ博士とも呼ばれているほどの専門家。

Q.今後、仕事やプライベートでどんなことをしていきたいですか？

仕事としては、月に1回研修をしていてそこでも話していることなんです、やはりお客様のニーズをいかにつかんで合わせていくかということ、そこを課題としてしっかりやっていきたいです。

プライベートなことでは、一人暮らしができるようにお金をためています(笑)。

仲田社長の地域活動の一つであるNPO法人ふくしま風景塾の活動にも今後は参加して、地域の人とのつながりを大事にしていきたいです。



黒にんにくを販売、PRしながら、
小野町の情報化のお手伝いをしていきたい

阿井 伸介さん

由加子さんご夫妻(小野町)

第20
ふくしま人

静岡出身の阿井伸介さん・由加子さんは、2019年に夫婦ともに小野町の地域おこし協力隊に就任して1年が経ちました。

夫の伸介さんは主に農業振興、妻の由加子さんは移住者のサポートなどに精力的に取り組んでいます。

Q.移住のきっかけを教えてください

伸介さん:東日本震災の1年前、福島を初めて訪れた時福島に惚れ込んで、いつか行きたいと考えていました。でも、何をしに行くんだ?と考えた時に、自分が情報処理系だったこともあって、会津大学がある、いわきのインベーションコースト構想がある、そんな福島の空気を間近に感じたいという思いがありました。

Q.なぜ小野町に？

伸介さん:会津といわきのちょうど中間だったからというのが大きな理由です(笑)。

由加子さん:お互い親類縁者がいない土地ですが、役場の方がとても親身になってくれて、困ったとき助けてくれるんだなということも理由の一つです。

移住する前に、冬の時期も含めて現地を見るために6回くらいは小野町にきました、片道7時間の日帰り(笑)。



Q.静岡と比べて居住環境はどうですか？

伸介さん:とにかく静かなということと、隣の家が遠い(笑)。あいさつ回りで13軒回ったら日が暮れてしまった。自然のアルソックというか、私たちが不在時に郵便屋さんがきたときなんか、今そこいらないよなんて言ってくれる。由加子さん:ご近所さんに連れられて山菜取りに行ったり、家にいるだけで玄関がもらった山菜だらけになったりしました(笑)

Q.移住前は静岡でどんな仕事を？

伸介さん:何でもやる便利屋を小野町にくるまで15年ほどやっていました。その間に独学で情報処理を勉強して、情報処理安全確保支援士資格という国家資格をとりました。仕事でも情報系のケアをする仕事をしていて、知識レベルも独学では限界だと思ってたのでこっちにきたところもあります。

由加子さん:自営業で音楽教室のサックス講師をメインとして、家庭教師をしたり、農業をやったり、ガーデニングも長いことやってました。

Q.協力隊ではどんな仕事をしていますか？

伸介さん:主に農業振興で、組合員として黒にんにくの生産に取り組んでいます。生産の補助、PR、イベントに出店して販売したりです。

由加子さん:移住の相談を受けて、話を聞いてマッチングしそうなものがあれば連絡したり、空き家を案内したりしています。

Q.今後やりたいことは何かありますか？

伸介さん:このご時世、小野町でも情報化が進むと思うので、そのお手伝いができればいいなと思っています。高齢者の方がLINEやスマホで扱いに困っていたり、学校でプログラミング教育が始まりそこについていけない子がいるかもしれない、そういったところをフォローできたいなと考えています。

由加子さん:今やりたいなと考えていることは、この施設(つどいて小野町)の前を花畑にしたいということと、サックス演奏と町民の皆様の活動とのコラボをしたいと思っています。

移住者にたくさん来てほしいという気持ちと同時に、今住んでいる人が私も含めて住んで楽しいとか明るい気持ちになれるような活動をしていきたいです。



第21 ふいしまん

仕事や勉強に集中できる 自然の中のワーキングスペースを たくさんの方に利用してほしい

宇都 桜史朗さん(玉川村)

鹿児島県出身の宇都桜史朗さんは、2017年に玉川村の地域おこし協力隊に就任し、2020年の10月に任期満了により退任しました。2020年10月に「ワーキングスペースたまかわ」が玉川村にオープンし、現在は運営・管理に携わっています。

Q.これまでの経緯を教えてください

大学ではDNAの研究、卒業後は半導体の開発、地域おこし協力隊では動画・写真編集、現在はワーキングスペースの運営・管理と、興味のあることにチャレンジしてきました。

Q.移住のきっかけを教えてください

動画編集に関する仕事を探していたところ、玉川村が動画編集できる人材を募集していたことが移住のきっかけです。

Q.移住する際に不安はありましたか

人間関係の面で不安はありましたが、実際に来てみると皆さん良い人ばかりで自然となじむことができました。地域おこし協力隊としても、玉川村には当時3人の先輩がおり、役場の方も協力隊に慣れていたので心配等はありませんでした。

Q.協力隊ではどのようなミッションに取り組んでいましたか

協力隊としては、動画や写真の撮影や編集、資料の作成や編集、広報等をしていました。村の広報誌では自分の撮った写真を使っていたら、大きなやりがいになっていました。また、月に一回の定例会やイベントなどで協力隊間のコミュニケーションも十分に出来ました。

Q.ワーキングスペースたまかわの魅力を教えてください

多くのワーキングスペースが町中にあるのに対し、ワーキングスペースたまかわは自然豊かでのどかな場所があり、集中して勉強や仕事をする事ができます。廃校



をリノベーションして活用していますが、とてもきれいで、明るいところも魅力の1つです。また、体育館は部活動の練習等、家庭科室は料理教室等と、様々な目的でご利用いただけます。

Q.今後やりたいことは何かありますか

ワーキングスペースたまかわにたくさんの方が来ていただけるように、周知に努めたいです。

Q.これから移住を考える人にアドバイスを

資料を見るだけでなく、現地に足を運び、現地の方々と一緒に話すことが大切だと思います。



■ワーキングスペースたまかわ
<https://www.coworking-tamakawa.jp/news/>

「行きたい」「来てよかった」と 思ってもらえるような場に育てていきたい

佐藤 聡さん 美郷さんご夫妻(須賀川市)

第22 ふいしまん

福島県出身の佐藤さんご夫婦は、東京都からUターンし、現在は須賀川市でguesthouse Nafsha(ゲストハウス ナフシャ)を運営しています。

Q.移住したきっかけを教えてください

聡さん:もともと、お互い将来的には福島県に戻りたいという気持ちを持っていました。東京で開催されていた震災復興支援のイベントで出会い、結婚をし、その後二人で話合っ、いつかUターンしようという話は話していましたが、たまたま知り合いに郡山周辺の物件を紹介され、それがきっかけでUターンを本格的に考え始めるようになりました。その後、なかなか条件の合う物件に出会わずにいたのですが、須賀川市にある私の父の家がちょうど空き家になるということで、須賀川市への移住を決めました。



Q.ゲストハウスを始めようと思ったきっかけは何ですか

聡さん:二人とも場づくりをしたいという思いはありました。私自身、過去に復興支援のための場づくりをしていたこともあり、いろんな人に集まってもらって、未来について語り合うという経験をしてきました。人は一人でできることは少なく、多様な人が集まるからこそいろいろなことができと思っています。そのためにリアルな場を作りたいと思ったことが、ゲストハウスを始めたきっかけですね。また、民泊新法という法律の改正によりゲストハウスが法的に認められたことも、後押しとなりました。

Q.guesthouse Nafshaはどのような場所ですか

美郷さん:ゲストハウスと聞いて、外国人やバックパッカーが気軽に泊まれる場所を想像する人も多いと思いますが、私たちが作りたい場所は、少し違っています。宿泊する中で実際に私たちの生活を垣間見ていただき、ここでの日常が心地良いものであるということを、少しでもお



伝えたい。そのために様々な部分にこだわって、ゲストハウス運営をしています。

聡さん:ここはアクセスが決して良いとは言えませんが、勇気を出して、この場所でゲストハウスを始めてみようと思いました。ここへは“わざわざ”来ていただかなければなりません。遠方からでも、アクセスが悪くとも「やっぱり行きたい・来てよかった」と思っていたらいい、これからもこの場を丁寧に育てていきたいと思っています。

Q.予約方法もこだわっていますね

聡さん:はい。ご予約はお手紙で承っています。時代の流れに逆らっている気もしますが、ご予約していただく方にも「手紙のやり取りする」というプロセスから楽しんでいただけると嬉しいです。

Q.移住する上で不安だったことはありましたか

聡さん:収入面では、東京にいた頃からするとどうしても下がってしまうので、少し不安でした。その他は、Uターンすることを念頭に福島へはよく帰省したので、そこまで大きな不安はありませんでした。友人や知人と頻りに連絡を取り合っていたことも、支えになっていたように思います。

Q.ゲストハウスを通して、どのような場をつくっていきたいですか

聡さん:将来的にはゲストハウス以外にも、地元である須賀川市でいろいろなことをやって盛り上げていきたいです。須賀川市の町中は空き家が目立っている、それらを活用してもっと面白い場所にしていただけたら良いですね。美郷さん:須賀川市の町中でアトリエを開きたいです。クリエイターが気軽に集える場を町中にもつくることで、須賀川市の魅力や暮らしを発信していきたいと思っています。将来的にはゲストハウスの2店舗目やカフェなどもオープンできたら良いですね。guesthouse Nafshaを旗艦店として、須賀川を盛り上げる活動を今後も展開していきたいです。

採れたての美味しい野菜を その場で食べられるような環境を 村内に整備していきたい

西脇 透さん(平田村)



第23
ふくしま人



新潟県出身の西脇透さんは、2019年の12月に平田村に地域おこし協力隊として移住しました。地域おこし協力隊として、平田村の農業支援に貢献しています。

Q.これまでの経歴を教えてください

これまで、農産物に関する民間企業に長年勤めていました。高校卒業後は、地元の農業協同組合に約10年間勤め、その後は、東京都に本社を置く生シイタケ生産販売会社で営業職として13年間勤務しました。その内の3年間は、福島県白河市にある直営工場で勤務しました。この時の経験から、群馬県上野村できのこセンター業務拡張の新規立ち上げにも携わりました。また、生シイタケ生産販売会社の時の御縁により、東京都の市場で仲卸業として約8年間勤めていました。



Q.移住のきっかけを教えてください

私が福島県を離れた翌年、東日本大震災が起きました。福島県にいた頃、現場や営業先で携わった人にやさしくしていただいたのにもかかわらず、東日本大震災直後、福島県白河市の直営工場への支援活動を出来なかった事への罪悪感を覚えており、定年を機に、「福島にかかわりたい」、「自分がこれまで培ってきたスキルや経験を福島に恩返ししたい」という思いで移住を希望しました。

Q.移住する際に不安はありましたか？

不安は全くありませんでした。何かをしたいというよりも、福島に行く事が目的であり、福島県に行けば何か出来る事があるのではないかと考えて移住しました。

Q.協力隊ではどのようなミッションに取り組んでいますか？

私のミッションは、平田村の農業支援です。平田村は、山間地という土地柄により、収穫量は稼げないですが、肥沃な土地でおいしい野菜が出来る事が実感できます。この強みを生かして、少量多品目ということで、量より質で勝負しようと決めました。いくつかの生産者を回っていると、次第に興味を持ってくださる方も増えていき、お互いに問題解決のために頑張ろうという関係になっていきました。私自身、平田村で採れた野菜を農家レストラン等に持込み、シェフ等からの“美味しい”を根拠に生産者との取組みに奔走しています。

Q.今後の目標を教えてください

平田村には、ご高齢にもかかわらず元気に働いている生産者がたくさんいます。そのような方が輝ける場所として、今後は、小さなマルシェや収穫祭を定例化していきたいと思っています。採れたての美味しい野菜をその場で食べて頂けるような環境を、村内に数か所整備して行きたいと考えています。

Q.東京と地方での仕事にどのような違いを感じましたか？

やはり、スピード感が全く違うと思います。東京では、日々情報錯綜する中で仕事をしなければなりませんでした。地方では、東京よりもゆっくりと仕事が出来るので、当初はギャップを感じました。しかし、地方には地方のやり方があるので、地方を東京に合わせようとするのではなく、地方のやり方を大事にしようと思っています。

Q.これから地方で暮らしたい、協力隊になりたい人へのアドバイスは

地方移住するにあたって最も大切なことは、自分の志や信念だと思います。自分がそこで何をしたいのかということ、地方移住に限らず大切なことだと思います。また、地方移住に際しては、私の経験上ではありますが、地元の人と積極的にコミュニケーションをとり、関わりを持つ事もとても大切だと思います。



サラダにトマトを飾るように、 一般的な食材になってほしいです。

影山 智さん
美樹さんご夫妻(郡山市)

福島県出身の影山さんご夫婦は、東京都からUターンし、現在は郡山市でせっちょばら農園を経営しています。せっちょばら農園では、稲作のほかに食べられる花「エディブルフラワー」を栽培しています。

Q.これまでの経歴を教えてください

智さん：僕は福島県の農業高校、短大を卒業し、農業高校の実習助手を5年間勤めていました。うちはこれまで米一本の水稲農家でしたが、何か新しいことにも挑戦したいということで、東京都の農業経営を学ぶことができる学校で2年間学び、ノウハウを学んでから就職しました。
美樹さん：私は、福島県に戻る前は東京都で約8年間、町の花屋さんで働いていました。

Q.エディブルフラワーを始めたきっかけを教えてください

智さん：東京の学校に通っているとき、エディブルフラワーの農家さんを視察する機会や、インターンシップでエディブルフラワーの通販をしている企業に行く機会等があり、東京でエディブルフラワーが広がっている現状を見て、実家の経営に取り入れようと思ったことがきっかけです。
また、エディブルフラワーは限られたスペースであっても、そのスペースを最大限に利用できる、その点も始めるきっかけの一つでした。

Q.エディブルフラワーの魅力を教えてください

智さん：例えば、ケーキだけでもきれいですが、そこに生花を添えることによって、ケーキになかった色合いが生



第24
ふくしま人

まれ、文字通り華やかになります。生花の香りや味も、新しい食材としての可能性を秘めていると思います。

Q.Uターンする際に不安はありましたか？

智さん：正直、不安はありませんでした。(笑)
当時は、福島県でエディブルフラワーをやっている農家も僕が知っている限りではなかった、不安な部分は大きかったです。しかし、東京でエディブルフラワーを福島でやると決めたので、チャレンジしようと思いました。

Q.Uターンしてよかったなと思ったことはありましたか？

智さん：東京では自然の音に飢えていたのですが、戻ってからは、カエルの鳴き声や、川の流れる音等が聞こえるので、癒やされています。
美樹さん：東京に比べて、流れる時間がゆっくりになりました。ゆったりとした地方での暮らしを楽しんでいます。

Q.エディブルフラワーや農業を通して伝えたいことは何ですか？

智さん：僕が農業に興味を持ったきっかけは、小学校等の授業の一環であった食育教育でした。その後の進学も、農業に楽しいイメージがあったので、農業の道に進みました。そのような背景から、僕自身も食育を通じて、作物とのふれあいや自然との対話といったことを伝えたいです。

Q.今後やりたいことはありますか？

智さん：今後は、エディブルフラワーをもっと広めていきたいです。エディブルフラワーは新しい食材ということもあり、今は外食産業がメインですが、一般家庭でも楽しめる食材になってくればと思います。
美樹さん：私も同じく、エディブルフラワーがサラダにトマトを飾るように、より一般的な食材になってほしいです。

活用しよう! 制度と施設

すむ

移住地で、自分の城となる住まい。せっかく移住するのなら、こだわりのお気に入り物件を見つけてのびのびと生活したいですね。事前の情報集めが何より重要な移住候補地での物件探し。ポイントを絞って効率的に探しましょう。



引っ越し補助

対応市町村
須賀川市 田村市 三春町 石川町 天栄村
鏡石町 浅川町 玉川村 古殿町 平田村

新婚世帯の引っ越しをサポート! 最大30万円を補助します!
対象/令和2年3月1日~令和3年2月28日までに婚姻届を提出した34歳以下の夫婦かつ直近の所得証明書に基づく夫婦の合計所得金額が340万円未満の世帯
※自治体によって要件が異なります。



参考サイト
「みはる暮らし」

くらす

移住地での新しい暮らしでは、何かと不安を感じるものです。地域特有の習慣はもちろん、友達ができるか不安だったり、誰に相談したらいいかわからない事があると思いますが、各市町村には様々なコミュニティが用意されていますので、ご安心ください。



郡山市 はやまーゼ教室

新しく郡山市へ転入された女性を対象に、「郡山を知ってもらうこと」「仲間づくり」を目的とした教室を開催しています。

郡山市立中央公民館 TEL 024-934-1212



天栄村 湯本塾実行委員会

湯本地区のよさを再認識するとともに都市部からの移住・定住の促進を目指し、湯本を元気にすることを目的としたプロジェクトです。

天栄村役場湯本支所 TEL 0248-84-2111



はたらく

移住する際に住居を見つけることも大切ですが、自分のライフスタイルに合ったお仕事を見つけるのも大切です。これまでの経験を活かしたお仕事でも、初めて挑戦するお仕事でも、移住地でチャレンジする人をサポートする制度がたくさんあるので、ぜひご利用ください。



コワーキングスペース

コワーキングスペースとは、創業を目指す人や起業したばかりの人、そしてベテランの経営者などが気軽に集い、勉強会や情報交換会、イベントなどを開催する場所です。

名称	問い合わせ先	TEL・Mail	料金等
郡山市 co-ba koriyama	一般社団法人 グロウイングクラウド	info.coba.koriyama@gmail.com	月額会員8,800円~ 1Day利用 1,100円
郡山市 コワーキングスペース コオリヤマ	NPO法人 アイカラー福島	024-953-8057	月額会員12,000円
郡山市 福島コトひらく	NPO法人コースター	024-983-1157	月額会員10,000円 1Day利用 1,000円
田村市 テラス石森	一般社団法人Switch	0247-61-7575	16,500円(月額) 1,000円(日額)
玉川村 コワーキングスペース たまかわ	コワーキングスペース たまかわ	0247-57-2104	2021年9月末まで無料



co-ba koriyama



コワーキングスペースたまかわ

国 農業次世代人材育成資金

次世代を担う農業者となることを志向する者に対し、就農前の研修を後押しする資金(準備型/2年以内)および就農直後の経営確立を支援する資金(経営開始型/5年以内)を交付します。



各市町村の補助制度一覧



(令和3年6月1日現在)

市町村名	問い合わせ先	電話番号	しごと支援				住まい支援				子育て支援			体験	
			コワーキング スペース	創業支援	空き店舗 利用補助	奨学金 補助	空き家 バンク	引越し 補助	住宅 取得補助	空き家 改修補助	出産 祝い金	医療費 助成	保育料 支援	お試し 住宅	就農支援
郡山市	政策開発課	024-924-2021	○	○			○					○	○		
須賀川市	企画政策課	0248-88-9111		○			○	○	○	○	○	○	○		○
田村市	経営戦略室	0247-81-2117	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
鏡石町	総務課	0248-62-2117		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
天栄村	企画政策課	0248-82-2333					○	○	○	○	○	○	○		○
石川町	企画商工課	0247-26-9111					○	○	○		○	○	○		○
玉川村	企画政策課	0247-57-4628	○				○	○	○		○	○	○		○
平田村	企画商工課	0247-55-3115					○	○	○	○	○	○	○		○
浅川町	総務課	0247-36-4121					○	○		○	○	○	○		○
古殿町	産業振興課	0247-53-4620						○	○		○	○	○		
三春町	企画政策課	0247-62-1122			○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
小野町	企画政策課	0247-72-6939							○		○	○	○		○

※詳しい内容、条件等は各市町村へお問い合わせください。

※医療費助成は、県内全域で実施(18歳以下医療費無料)

※空き家改修補助は、県内全域で実施(「住んでふくしま」空き家対策総合支援事業)。

※住宅取得補助は、市町村の独自補助があり、県による上乗せ補助があります(来て ふくしま 住宅取得支援事業)。



テラス石森(田村市)



tette わいわいパーク(須賀川市)



ベップキッズ(郡山市)



おしごと百貨店(郡山市)

／現地案内について／

プチ移住
してみたい!

お試し住宅



田村市 お試しチャレンジハウス
料金／1日300円
滞在期間／2日～3ヶ月。更新も可能。
問い合わせ先／
田村市経営戦略室 TEL 0247-81-2117



福島県

来てふくしま体験住宅提供事業

若者等を対象に福島体験のための滞在住宅として
県営住宅の空き住戸を一定期間提供します。
料金／月額10,000円(駐車場・共益費等は別途負担)
滞在期間／3ヶ月(最長1年まで延長可)
募集期間／令和3年4月1日(木)～令和4年3月31日(木)
15戸程度(※先着順で、予算枠に達した時点で募集は終了です。)
要件／SNSで移住や福島の魅力について情報発信を
行うこと。団地の自治会活動へ参加すること。等
問い合わせ先／
福島県県中建設事務所 建築住宅課
TEL 024-935-1462



まずは、ふくしまに
行ってみたい!

交通費補助



福島県
対象者／県外在住の方で福島県への移住を希望する方
補助額／定額(現住所により異なります)
※東京都の場合は8,000円

物件とか仕事とか地域のこととか、
いろいろ知りたいけど
どこに行けばいいかわからない

オーダーメイド型 現地案内

料金／無料(現地までの交通費、食事代、宿泊費は自己負担)
日程／ご希望の日程・内容を聞き取って設定いたします
お問い合わせ／福島県 県中地方振興局 024-935-1323

／ふくしま ど真ん中 チャレンジライフ／

地方就農して
地域農業の
担い手になる!

ゲストハウスを
経営して
スローライフ!

地域の一員として
地域おこしをしたい!

ふくしまに移住を検討しているあなたに
「ふくしまでの新しい暮らし方・働き方」を提案します!



ふくしまでの挑戦に向けて、まずは体験してみませんか?
詳しくは、福島県県中地方振興局へお問い合わせください。

／ご相談はこちら／

都内での
ご相談は

有楽町にある「福が満開、ふくしま暮らし情報センター」にて相談員が常駐しておりますので、移住に向けた地域情報の収集や、お仕事・お住まいに関する悩みを相談したい方、まずはお気軽にご訪問ください!

福が満開、ふくしま暮らし情報センター
(千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館8階
NPO法人ふさと回帰支援センター内)
TEL 03-6551-2989
E-mail: fukushima@furusatokaiki.net

現地の
ご案内は

県中地方振興局でも、様々なテーマでのセミナーの開催や、実際に現地案内をしております。お気軽にお問い合わせください!

福島県県中地方振興局
企画商工部 地域づくり・商工労政課
TEL 024-935-1323
E-mail: kenchu.kikakushoukou@pref.fukushima.lg.jp
https://fukushima-ijyu.com